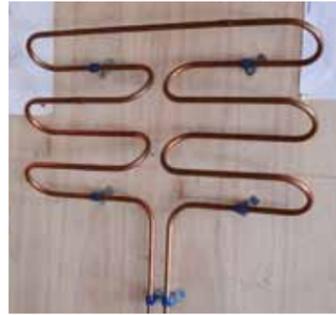


先輩から叩き込まれた銅配管の技術を駆使！「清水さんが製作した大会の課題作品」

清水さんがブラジル大会で製作した作品をはじめ歴代社員が技能五輪国際大会で製作した作品を(株)千代田設備 両川営業所の1階に展示している。



■図面をその場で描く

課題の一つヒーターは、ヨーロッパなどのホテルを参考に、濡れたタオルなどをかけて乾かせる形状をイメージ。その場で図面を描き、マシンペンダと手作業で曲げ加工して美しく仕上げた。



■開催国ごとの事前対策も

「床暖房の配管はブラジルの国旗を表現」と指定されたが、開催国のカラーが必ず課題に反映されると先輩に教えられていたので慌てなかったと清水さん。また工具、継手などの作業条件も日本とは異なることが多いため、大会で戸惑わないようにと会社をあげて事前に準備サポートした。

株式会社千代田設備  
第2工事課  
清水 龍二氏



ものづくり日本の代表としてのプレッシャーをはねのけ、配管職種部門で見事に銅メダルに輝いた(株)千代田設備の清水龍二さん

社員が夢を共有し力を合わせる  
それが会社全体のレベルアップに！

# 銅配管の技で「技能五輪」へ

2年に一度、世界中から集まった全50職種の若き技術者たちが、4日間にわたりスキルを競い合う「技能五輪国際大会」。2015年8月、ブラジルのサンパウロで開催された第43回大会では、ものづくり日本の底力を魅せつけ、金メダル5個、銀メダル3個、銅メダル5個を獲得した。その中の一つ配管職種で銅メダルに輝いたのが(株)千代田設備の清水龍二さんだ。(株)千代田設備は、「日本一」の称号と国際大会の代表選手のリリストを輩出している。なぜそこまで競技会に力を入れているのだろうか。

出場する社員の頑張りを  
周りの社員まで変わってきた

(株)千代田設備は、新潟市で約50年続く管工事、空調工事などの設備施工会社。品質管理の国際規格ISO9001(品質マネジメントシステム)の認証を取得し、年間1000件を超える新築戸建住宅や商業施設、さらに公共施設の管工事、空調工事に多数の実績を持つ。その評価を支えるのは、職人の確かな技術力。約200人の技術者が、お客様に満足してもらえ、対応を実現するため、社内勉強会などを活用し、より高い技能の修得に励んでいる。その中で会社を上げて推進しているのが「技能五輪」への挑戦だ。

「競技会にはじめて参加したのは昭和58年。ある社員が技能グランプリという技術者の大会があるので、ぜひ参加してみたい」と言ってきたのがきっかけです。その時は、まあ、腕試しのつもりで軽く了承しました」と佐藤袁也会長は振り返る。その社員が銀メダルを獲得。すると、次は私も出てみたいと次々と希望者が現れた。大会では、日頃行っていない配管技術

技能五輪国際大会では  
銅配管の技術が優劣を決める

清水さんも全国大会の出場3か月前から自主特訓を開始。配管の基本を徹底的に！との先輩のアドバイスを受け、毎日、仕事が終わった後に地道な練習を続けた。「まさか日本一になり、国際大会に出場

できるとは、夢にも思っていませんでした。国際大会の課題は、銅配管を中心に作品を製作します。欧米では、給水給湯は銅配管が普通。だから国際大会では、銅配管の技術が問われると先輩に教えられ、5か月間猛特訓しました。先輩方から付、継手、曲げ加工などを徹底的に叩き込まれ、何度もダメ出しを受けながら、深夜まで練習を繰り返しました。そのおかげで銅管の特徴も面白さもすっかり理解でき、いまでは銅管が一番好きな管材になっています(笑)」と清水さんは話す。

大会のプレッシャーや日本と異なる作業環境の中、規定時間内で作品を完成できるように、頭で悩むより先に自然に手が動く、そんな練習も積んで本番に臨んだ。

「難しかったのは、与えられた図面から正確に情報を読み取り、材料を発注することでした。特にヒーター部は、図面にワット数が書かれていて、そこから必要な銅管のサイズと長さを逆算して注文します。実は、ここで注文した長さが少し足りなかったんです」後でわかったことだが、

技能五輪とは



同年代の技術者に日本一という大きな目標を与え、互いに切磋琢磨し、ものづくり日本の技術水準を高める。そんな目的を持つ「技能五輪全国大会」は、中央職業能力開発協会と都道府県が協賛し開催する大会である。対象職種は、配管から板金、左官、精密機器組み立て、美容、洋菓子製造、ウェブデザインまで実に多彩。出場できるのは原則23歳以下、各都道府県職業能力開発協会などを通じて選抜された者だけだ。なお、国際大会が開催される前年の全国大会の優勝者には、日本代表として「技能五輪国際大会」の出場資格が与えられる。

も求められるため、出場者は仕事が終わった後、夜遅くまで自主的に訓練を続けている。その姿を見た周りの社員は少しでも訓練できる時間を作ってあげたいと出場者の仕事をバックアップ。大会に出なくても自ら技術向上を目指すなど、よい連鎖が生まれてきた。

「大会に出るとこんな効果もあるのかと正直驚きでした。人間はつい楽な方を選んでしまうのですが、あえて辛い選択をし、努力を続ける。その姿が他の社員の気持ちを動かし、変えていったんですね。いまは会社をあげて大会への出場を応援しています。大会出場は全社員のよいモチベーションとなり、仕事のクオリティも全体でアップしてきました」と佐藤会長は話す。



株式会社千代田設備  
会長 佐藤 袁也氏

上位2名との得点差は僅か1ポイント。このミスがなかったら、結果は違っていたかもしれない。



大会に精通した先輩が同行して  
出場者をサポート

「悔いがないと言えれば嘘になりますが、応援いただいた先輩方に心から感謝しています。まったく違う職種の仲間が集まった日本選手団が、ものづくり日本の代表者としての誇りを持ち、互いに励まし合い団結して戦うことができたのも、忘れられない思い出です。この経験と感動を後輩にぜひ伝えていきたいですね」と清水さん。佐藤会長は「大会では、いかに条件が厳しくてもより高い完成度を目指しますが、これは日頃の仕事と同じです。また、時間を割いて指導してくれた先輩、サポートしてくれた同僚がいて、はじめて自分力を発揮できたのだということ。大切なのは、技術だけではなく、心技体を高めていくことなんです。大会の経験を通じて、社員には人間的にも大きく成長してほしいですね」と結ばれた。

株式会社千代田設備

- ・創業：昭和40年3月26日
- ・本社：新潟県新潟市中央区下所島2-17-3
- ・営業所：両川営業所、長岡営業所、首都圏営業所 他
- ・従業員数：245名 ※グループ総数(平成26年3月31日現在)
- ・営業内容：管工事、空調工事、営繕工事、災害復旧工事、産業廃棄物、建築工事、不動産の売買

